

神奈川県農業信用基金協会

1. 神奈川県の紹介

神奈川県は首都圏の一角に位置し、北は首都東京に接し、東は東京湾、南は相模湾にそれぞれ面しており、西は山梨・静岡両県に接しています。

33の市町村からなりますが、政令指定都市3市（横浜・川崎・相模原）を抱えるのは本県だけです。

武家社会の始まりとして「鎌倉幕府」が関東に初めて政治の中心に移りました。近代史ではペリーが横須賀に来航し、横浜港が開港されるなど、歴史上また自然豊かで風光明媚な観光スポットが多数存在します。サザンオールスターズで湘南エリアも超有名です。

今後の話題としては、2027年3月に国際園芸博覧会（横浜花博2027）が横浜市で「幸せを創る明日の風景～Scenery of Future for Happiness～」をテーマに開催されます。

プロスポーツも盛んでサッカー（川崎フロンターレ、横浜F・マリノス、湘南ベルマーレ他）、野球（横浜DeNAベイスターズ）およびバスケットボール（横浜ビー・コルセアーズ）が大きな声援を受けています。



2. 神奈川県の農業

神奈川県の農業は、農家一戸当たりの耕地面積が0.9haと全国平均の2.5haと比べて規模は小さいですが、野菜や花きを中心に高い技術力を生かし、農地を高度に利用した土地生産性の高い経営が行われています。また、畑については、耕地面積に占める割合が80%と全国平均の46%と比べて高く、温暖な気候や大消費地に近いという利点を生かして、野菜や果実のほか、牛乳、豚肉など生鮮食料を中心とした生産が盛んです。販売については、市場出荷や直売、契約出荷、観光もぎとりなど様々な方法で行われています。（農林水産省：「神奈川県の農林水産業の概要」より）

【主な特産物】

○足柄茶

関東大震災の産業復興策として、大正14年（1925年）から栽培がはじまった足柄茶。現在では、神奈川県北西部に位置する丹沢・箱根山麓一帯で育てられ、味と香りに優れた茶葉

は「かながわブランド」に登録されています。

○三浦大根

神奈川県・三浦半島を代表する野菜として大正時代から栽培されてきた大根であり、現在は主にお正月用として出荷される希少な存在です。歯切れの良さから、正月のなますにするなら三浦大根と言われるほど根強い人気があります。



○湘南ゴールド

神奈川県が12年の歳月をかけて開発した新感覚オレンジ。爽やかな独特の香りと、甘さと酸味のバランスがとれた優れた品種です。大きさは温州ミカンよりやや小ぶりで、そのまま食べるのはもちろん、果汁や果肉を使ったゼリーやドライフルーツ、ドロップなどの加工品も人気です。



○はるみ（米）

名前は「湘南の晴れた海」に由来しており、キヌヒカリの後継品種として開発され、つやがあり強い甘みが特徴です。日本穀物検定協会が実施した「米の食味ランキング」では、平成28年・平成29年産米が2年連続で「特A」の評価を得たことで、農家や消費者から大きな注目を集めました。



3. 神奈川県農業信用基金協会の概要

当協会は、理事10名（うち常勤1名）、監事3名、職員14名で、2課体制（総務課・業務課）で業務運営を行っています。



4. 神奈川県農業信用基金協会の活動

当協会では、JA等からの案件相談を前広に受けながら、コミュニケーションを密に取り、頼りになる保証機関を目指してきました。特に住宅ローンにおいては、他行競合が激化するなかで各案件のリスクに応じた納得感と競争力のある保証料率（7段階）の付与を常に意識し、迅速な回答を徹底することで、JAの案件獲得の一助となるよう、努力してまいりました。

これにより、農業資金については、「農機

ハウスローン」を主軸に残高は伸長、保証残高の大宗を占める住宅ローンについては、保証料引き下げ施策等も寄与したことで、保証残高の底上げに大きく貢献しました。結果的に令和4年度の保証残高は、2,343億円を計上し、過去最高となりました。

今後も時代の変化に柔軟に応じながら、積極的な残高伸長を図りつつ、公的な保証機関として、また信頼される保証機関となるよう努めてまいります。